



## 令和元年度国公立大学附属病院医療安全セミナー開催報告

大阪大学コンベンションセンターに、全国の医療機関等から421名の参加者を迎え、令和元年度国公立大学附属病院医療安全セミナー（文部科学省後援）を開催しました。今回は、医療安全に係る国の施策、および医療安全・質向上のための周麻酔期看護や入退院支援における活動について理解する、レジリエンス・エンジニアリングについて学習し、その実践のための柔軟な組織デザインについて知識を得る、Person-Centered-Careについて理解を深め、患者相談や模擬患者など患者の視点から安全な医療を学ぶ、という学習目標を掲げ、2日間で計12のセッションを開催しました。ここでは、職員のモチベーションを高め、医療の質も高める、柔軟な組織デザインに関する取り組みについて紹介します。

### 病院の差は職員の差 —福井県済生会病院の組織改革—

#### 座長

横浜市立大学附属市民病院 市民総合医療センター 病院長 後藤隆久先生

講演：登谷 大修 先生 社会福祉法人 恩賜財団済生会 福井県済生会病院 病院長



働きやすい病院「ホスピレート」認証(H19), 「日本経営品質賞」受賞(H24), 福井労働局「働き方改革ベストプラクティス企業」認定(H28), 第5回「ワーク・ライフ・バランス大賞優秀賞」受賞, 第1回「カエルの星」(内閣府)認定

#### 社会福祉法人 恩賜財団済生会 福井県済生会病院



病床数：456床（23科）  
職員数：約1,200名  
外来患者数：約1,200人/日  
入院患者数：約400人/日  
ISO 9001 認証（H17～）

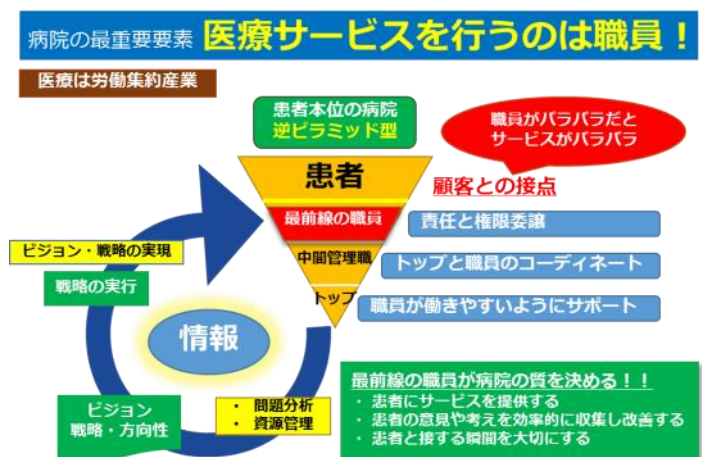
### 現場の職員が病院の「最大の力」

#### 価値観の共有

「患者さんの立場で考える」という理念を基本方針とし、正確で迅速、柔軟で適正な医療を提供する。なによりも、患者さんが職員に気軽に相談でき、不安がとれる、温かい医療を目指し、前向きになれるような病院の雰囲気作りを行うことが大切である。

#### 職員のチーム作り

新人看護師や転勤してきた医師などが互いに意見を出し合える「ワールド・カフェ」を開催することにより、互いの意見を理解し、共通の「思い」を創造するための環境作りを行っている。



登谷先生のご講演資料（一部改変）より

# ワーク・ライフ・インテグレーション

## 仕事と生活の両立

女性が8割を占める職場であり、出産や育児に対応するため、日勤・準夜勤・深夜勤のみから、19パターンに勤務体系を増やし対応した。また、病院独自に育休の延長制度や、孫の出産休暇を作っている。

## キャリア支援

認定看護師の資格取得にあたっては、病院負担で研修を受講できるようにしている。さらに、獲得した専門性を活かすため、ストマケアを専門とする看護師が自律的に地域の診療所に年間60回程度出向き、教育を担当している。

選べる勤務  
子育て支援  
キャリア支援

## 仕事と生活の充実



労働時間・健康管理  
業務補助（タスクシフティング）  
リフレッシュ休暇

登谷先生のご講演資料（一部改変）より

## 組織的な改善の仕組み

## 事務力による医療の質の向上

経営企画課を中心とするSQMセンター（済生会クオリティマネジメントシステムセンター）は、患者のニーズを絶えず確認しながら、改善を進めていく旗振り役を務めており、医師への診療報酬の説明や、ITを活用した画像・病理レポートのフォロー体制を構築している。また、日々の課題や問題を分析するための「サービス・レポートシステム」を用いることで、医療の質と安全性を是正し続ける仕組みを作っている。事務職員と医療者が手を取り合い、患者・職員・経営の全てがバランスよく良くなるという「共通目標」に向かって協力することが、病院運営においてとても大切である。



登谷先生のご講演資料（一部改変）より

在日ノルウェー大使館において、ノルウェーの研究者をお招きし、  
レジリエント・ヘルスケアのセミナーおよびレセプションを開催します！



日時：2019/8/22(木)13:00-17:45

場所：ノルウェー大使館（東京都港区南麻布）